

「リーダーの一流、二流、三流」という本からです

三流は、情報の質にこだわり、二流は、情報の量にこだわり、一流は、情報収集の対象を絞り込む

昨今では、インターネットの発展により、情報をいくらでも集められるようになりました。反面、情報は玉石混交になり、本当に有用なものを見極めることが難しくなっています。

慣れないうちから、「質」を求めるのは難しいです。「量」をこなすことで「質」に転化します。しかし、いくら「量」にこだわっても、正しい情報を得られるとは限りません。

仮に、リーダーのあなたが、次のように指示を出したとします。「地方を元気にするビジネスを考えて欲しい」この指示で部下は動けるでしょうか。「地方元気ビジネス」というキーワードで情報収集しても、具体的な答えは出てこないでしょう。ここで、「まず質より量だ、情報を収集しろ」と言っても、おそらく有用な情報は集まらないでしょう。

一流のリーダーは、このような指示の出し方をしません。指示を出す前に、仮説を立てるのです。

地方にはどのような会社があるだろうか→名産品など美味しい食材を生産している会社がある→そのような会社は何に困っているか→人口の減少などに伴い、お店にくる人が減っている→お店にくる人を増やすにはどうしたらいいか→全国の人に販売できるネット通販がいい

このように仮説から導き出すことによって、情報収集するテーマは「ネット通販での買い物実態」「ネット通販でライバルになりうる会社はどこか」などと、具体的に情報を収集する対象を絞り込めるわけです。

もちろん、この仮説は新たな情報が収集できたら、修正していく必要があります。また、ときには大きくずれてしまうことがあるかもしれません。ですから、仮説を長々と考える必要はありません。1分ほどでストーリーを考えて、導き出せばいいのです。正解かどうかを考える必要はないのです。

実はこの仮説というひと手間をかけることで、時間のムダもなくなります。「地方を元気にするビジネスがないか、情報収集して」と言うと、地方の会社を元気にするのではなく、地方に住む人々を元気にするのかと思って、その情報ばかりを集める人がいるかもしれません。あるいは、逆に地方で元気な会社をピックアップしてくるかもしれません。「何か違うんだよな」と、やり直しをさせるのは時間のムダです。「もっと頭を使って考えろよ」と言うのも部下に酷です。これでは、「リーダーこそ頭を使え」となってしまう。部下に情報を集めてもらいたいときは、仮説を立て、情報を絞り込みましょう。ゴールから考えるので、自ずと質のいい情報も集まってくるでしょう。

部下に情報を集めてもらいたいときはどうすればいいと言っていますか？

()